

基盤技術本部の取組み

現場が“楽に”結果を出せるよう 品質・生産性向上を中軸とした支援活動を展開

2007年10月に当時の技術集約組織が再編されて、NTTコムウェアの技術的な全社横断組織として誕生した基盤技術本部。ここでは、基盤技術本部の役割と組織構成、2008年度から3ヶ年計画としてスタートした「品質生産性革新戦略プロジェクトチーム」など、様々な支援活動について紹介する。

品質・生産性向上を支援する 全社横断的組織

ブロードバンド市場における他事業者との競争や移動通信分野における市場競争の激化など、NTTグループを取り巻く環境は、刻一刻と変化している。このような状況の中、NTTグループ各社は、グループの中期経営戦略である「サービス創造グループを目指して～ブロードバンド・ユビキタスサービスの本格展開～」の実現に向けて総力をあげて取り組んでいる。

NTTコムウェアは、NTTグルー

プの「CIO補佐」や「戦略パートナー」として、NGNへのマイグレーションやNGN上位レイヤサービスの提案・開拓などを推進している。この取組みの一環として、2007年10月に、品質・生産性向上を支援する技術的な全社横断組織として基盤技術本部を設立した。基盤技術本部の役割は、「方式・性能設計」、「開発技術」、「開発標準」、「開発管理」とともに、「ネットワークインテグレーション (NI)」、「セキュリティ」、「オープンソースソフトウェア (OSS)」などの注力ソリューシ



NTTコムウェア(株)
取締役 基盤技術本部長
仲西 秀基氏

ンに共通的に組み込まれている要素技術に関わる組織を一元的に集約すること。そして「NGNプラットフォーム技術」や「NGNアプリケーション技術」などのNGN向けの最先端技術研究を行う組織を統合し、研究開発から開発支援、著作権・特許取得といった一元的な役割を担う組織として、様々なプロジェクトの現場を支援することである（図1参照）。

プロジェクトチームを中心に 現場主導で各種施策を検討、展開

NTTコムウェアは、2008年度からの3ヶ年計画として「品質生産性革新戦略プロジェクトチーム」を発足させた。これは、NTTコムウェアの中期経営戦略の1つである「シ

<p>■ネットワークインテグレーション事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク構築に関する営業、SE、設計、構築
<p>■セキュリティソリューション事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セキュリティソリューション、セキュリティ基盤に関するマーケティング、営業、SE、開発、構築および維持 ・セキュリティソリューション、セキュリティ基盤に関する技術支援
<p>■プロジェクト支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発標準の制定と、開発手法や開発技術のプロジェクトへの導入支援 ・開発手法の導入と開発環境の構築、性能、方式、NI、セキュリティに関するプロジェクト支援 ・クオリティゲート活動による開発管理支援
<p>■基礎体力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全社PMO機能の発揮による開発管理の徹底 ・性能、方式、NI、セキュリティに関する技術向上とノウハウ提供 ・グループ直営力の強化策の実施、研究による開発力強化と専門家の育成
<p>■オープンソースソフトウェアの適用推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OSSミドルウェア機能の強化、OSSのSEや導入支援
<p>■研究開発の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究開発、技術調査の実施
<p>■知的財産活動の運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的財産権の取得や保護に関する全社機能
<p>■情報セキュリティの強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全社の情報セキュリティマネジメント、情報セキュリティ強化施策の企画と展開

図1 基盤技術本部の役割

システム開発力・サービス力強化に向けた品質・生産性革新」を支援することを目的とした支援活動である。本プロジェクトチームは、5つのワーキンググループ（WG）から構成されている（図2参照）。

各WGは、事業本部を牽引する現場のリーダーを中心に、現場主導で各種施策を検討・展開し、コスト削減をはじめとした、現場が“楽に”結果を出せるよう、様々な支援活動を推進している。この活動を全面的に基盤技術本部が支援している。また、本プロジェクトチームは「社内の全プロジェクトが施策を自律的に取り入れ、継続的に改善ができていく体質を目指すこと」や「数値管理や達成管理だけに捕われずにプロセス改善を重視すること」を活動のポイントにしている。本プロジェクトチームの活動は、各プロジェクトの状況や内容に応じた“工夫を凝らした”活動として着実に成果をあげている。

現場が“楽に”結果を出すために必要な業務改善を推進

基盤技術本部は、品質・生産性向上に向けた品質生産性革新戦略プロジェクトチームの活動を中軸に、研究開発や開発手法・管理、OSSの適用、セキュリティ、NI事業といったNTTコムウェア全てのプロジェクトを支援する組織である。同本部では、発足当初に発せられた指針「常に各自が業務改善を考え、自律的に改善活動が行われている組織になろう。業務改善は本来業務の中で実行されなければ意味がない」を本

開発プロセス革新WG	<ul style="list-style-type: none"> ●上流工程施策として、要件定義、外部設計書のひな型化 ●製造、試験基本環境セットの提供 ●ソフトウェアの棚卸し、再利用 ●開発環境の統合・共有化検討 ●事業本部毎の種々の原価低減施策の水平展開 など
問題プロジェクト撲滅WG	<ul style="list-style-type: none"> ●上流フェーズの不備による問題発生を防ぐため、上流工程を徹底強化 ●見積り精度の向上検討 など
調達戦略WG	<ul style="list-style-type: none"> ●オプション開発による積極的な原価低減 ●競争原理の意識浸透、まとめ買い実施など、調達全般にわたる改善 ●パートナー企業との連携 など
人材育成戦略WG	<ul style="list-style-type: none"> ●必須スキルを定義し、新入社員の基礎ITスキル徹底習得 ●中堅社員の活性化・設計能力向上、PMの社内育成 など
サービスプロセス革新WG	<ul style="list-style-type: none"> ●生産性と品質の向上のためのサービス（運用・保守・維持）プロセスの見直し ●ITプロフェッショナルとしてのスキルやナレッジの蓄積と活用の仕組みを構築 など

図2 各ワーキンググループの主な取組み内容

部の全てのメンバーが共通にイメージできるよう、スローガンとして「現場が“楽に”結果を出せる」を掲げた。同スローガンには、現場が単に結果を出せるよう支援するのではなく、現場が“楽に”結果を出すために、日々培ってきた技術やノウハウを駆使して創意工夫していくことを「業務改善」と定義し、現場支援の活動に注力していくという基盤技術本部のスタンスが表現されている。

ビジネス領域拡大に向けた様々な支援活動を展開

基盤技術本部では、各プロジェクトの現場を支援する技術やノウハウを様々な形で展開している。例えば、開発プロジェクトのメンバーが新しい技術等での問題や課題を解決する窓口として、社内ホームページに「技術窓口の一本化」を開設。迅速な対応を心がけ、多数の問い合わせが寄せられている。また、品質生産性革新戦略プロジェクトチームの活動で全社に水平展開したい取組みや支援ツールの“見える化”も実施し、

各プロジェクトの導入ツールや成功事例を把握できるようになっている。さらに、特許関連や知的財産に関する窓口も開設するなど、様々な支援活動を展開している。

このような様々な支援活動において、ビジネス領域拡大に向けた支援活動の柱として、①ソフトウェアの生産性向上では「Java開発総合フレームワーク『Raspberry』の開発とプロジェクトへの展開」、[NTTコムウェアのSOAソリューションのプロジェクトへの展開]、「OSS積極活動の取組み」、②プロジェクト管理では「リスク管理を中心にしたプロジェクト管理」と「開発標準」、③社内のセキュリティ対策で得たノウハウをもとにお客様へ提供するための「セキュリティソリューション強化」④新技術サービスでは「NGNプラットフォームを牽引する研究開発」、「サービス創出の研究開発」などの取組みを展開している。

基盤技術本部は、お客様により高い付加価値を提供できるよう、現場が“楽に”結果を出せるための様々な支援活動を展開している。